

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「利用者一人ひとりがこれまでの生活の継続性を図るとともに、生きがいのあるその人らしい暮らしを送れるようサポートします。」に基づき、スタッフ全員でサービスを提供している。	事業所の理念を月2回のミーティング時に全員で唱和し意識づけをしている。昨年は家族会で理念について説明し運営状況も報告している。理念にそぐわないような言動があった場合には管理者がその場で注意を促し、ミーティング時に全員で理念に沿ったケアの仕方について検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の協力のもと行事に参加してもらったり近くの保育園児との交流の場をもてるように努めている。散歩時など挨拶をし交流している。近隣の方が季節の花を届けてくださったりし馴染みの関係も出来てきている。	法人として自治会費を納入し、区長や民生委員から地区行事の案内をうけ、花火大会等に参加している。近くの保育園児との交流が年3回ほどあり、今年度からは小学6年生との交流を予定している。地区の高齢者のつどい(年2回)にも利用者、職員が参加し笑いヨガでの健康体操、手遊びなどを一緒に行ない交流している。隣にあるダンススクールでの交流も利用者は楽しみにしている。事業所だより「そよ風」を発行し、地区内での回覧をお願いし事業所の活動の周知にも努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフ全員が、認知症サポーター養成講座を受け、地域住民の認知症サポーターとして地域に貢献できるよう取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告を毎回行い、意見頂きその意見をサービスの向上に活かしている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で年6回開催している。家族代表、自治会長、民生委員、市高齢者介護課職員、地域包括支援センター職員が参加し報告や情報交換、認知症状についての質問に答える等、双方向で話し合いがされている。委員から地区の高齢者の集いなどの情報もいただきながらホームの運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、ご指導、助言等を頂いている。	運営推進会議で状況報告しているほか、地域包括支援センターが主催する地域ケア会議に出席し情報交換をしている。介護認定更新の調査時、家族同席のもと、ホームで職員が日頃の様子を伝えている。また利用者の施設内での転倒等の事故報告を行ないアドバイスも受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象になる行為が何かを研修し、身体拘束を行なわないケアを実践できるよう努めている。	玄関は昼間は開錠している。ミーティング時、定期的にマニュアルを読み合わせ、見守りを主とした拘束のないケア方法について研修している。夜間に外出傾向のある利用者については隣に座って話を聴くなど、気持ちが落ち着くよう対応し本人の意思を尊重している。また、運営推進会議などで万が一の離脱についても近所への協力依頼をしている。		

ニチケアセンター中塩田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修をし、スタッフの理解を深め虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識不足な面もあるので、勉強会などで学ぶ機会を設け知識を高めていけるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約時は、十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、また電話等の連絡時の都度、意見や要望等を聞きだす配慮をしている。	利用者の話をよく聴くよう心がけ、要望があれば応えるようにしている。家族の訪問は毎日あるいは月2～3回、2カ月に1回と様々であるが、その折に要望や意見を聴き応じている。家族会を行事と一緒に計画し、家族が来訪しやすいように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングや日常の業務の中で意見や提案を聞き、話し合いの時間を持てるようにし、反映できるように努めている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを多くとるよう心がけ、申し送りやミーティング以外でも意見や提案を聞いている。人事考課制度を導入しているのでそれを基に年1回管理者と職員が面接をし個々の資質やサービスの向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて面談を実施している。働きやすい職場作りを目指すためにもスタッフとのコミュニケーションをとるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修を毎月行っており、外部研修についてもお知らせし、参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で同業者との交流する機会を作り、それを基に高いサービスの提供ができるように取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話の中から本人の想いを汲み取り、不安等があればそれらを取り除けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントや入居時に話を聞き、寄り添うことで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か柔軟に見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事は実施してもらい、みんなで協力していけるような関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、状況報告をし、いつでも情報共有している。また、面会、外出、外泊もいつでもできるようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会を受けており、馴染みの場所や人のもとへ家族と一緒に出かけられる環境作りや、だれでも気軽に面会に来てもらえる雰囲気作りをしている。	家族や親戚、友人、以前からのお稽古ごとの仲間等の来訪があり、ゆっくりと話せるよう支援している。正月やお盆には一時帰宅する利用者もいる。また家族と美容院に行ったり地域の衣料品店で買い物をする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時は、皆さんに早く馴染める環境作りをしている。また、スタッフが間に入り利用者を理解し居心地の良い状況を配慮している。		

ニチイケアセンター中塩田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や、支援が必要な方には、これまでの関係を大切に相談と支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を利用者の言動を注意深く汲み取ることができるように努める。また、スタッフの話し合いの中からも検討している。	利用者一人ひとりの話を聞くことを大切にしており、その言葉から何を希望しているのか感じ取り、寄り添うようにしている。自宅で生活していた時の趣味や野菜作り等、継続できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から聞き取り、特に家族には、生活歴等の情報提供の協力をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックの実施、観察の強化をし、申し送りによる情報共有をしっかりと行い、現状の確認をスタッフで統一している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで利用者の状況を把握し、必要に応じてモニタリングし。担当者会議を行ない介護計画の見直しを行っている。	センター方式のアセスメントや担当職員が行ったモニタリング内容を基に計画作成担当者を中心とした担当者会議で介護計画について話し合っている。家族からは来訪時に要望を聞き介護計画に反映している。3～6カ月で見直し、状況変化等で必要があればその都度修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等を介護記録に残し、スタッフ間で情報共有している。利用者に変化が生じたときは、介護計画の見直しもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対し、スタッフ間で柔軟に話し合い、ご家族にも協力していただきサービスの提供に努める。		

ニチイケアセンター中塩田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、自治会、民生委員、ボランティアの協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者または、ご家族に選んでもらっている。提携医を希望されると月1回の往診がある。	かかりつけ医の受診については基本的に家族が付き添い、緊急時には職員または家族が受診支援を行っている。診療結果などの家族への報告は管理者または介護リーダーが行い窓口が一本化されている。受診の結果については申し送りや業務日誌への記載などで職員への周知徹底を図りケアに当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には医師や看護師に状況を伝えていく。往診時以外の変化の時は、電話で状況を伝え医師の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報(生活歴、既往歴)を病院に伝え、質問、相談があったときは、その都度対応し、利用者が安心して治療を受けられる体制に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、重度化された時、終末期についての会社の方針を伝え理解を得ている。ご家族の意見も聞きながらホームでできることを説明し、提携医と相談しながら支援していく。	契約時に本人と家族にホームとしての方針を伝え理解を得ている。重度化や終末期に直面した場合には家族とともに医療機関へ相談をかけながら対応している。本人に適した暮らしやすい場所へ移設する場合は、本人や家族が戸惑いのないように移設先と十分連絡を取り、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置と緊急時の対応についての研修を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、全スタッフが災害時の対応を身につけている。また、今後、地域の方や、消防団にも呼びかけて行く予定。	年2回小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、消防署への通報や避難誘導の訓練を実施している。夜間想定訓練では人員確保の必要性を強く感じ、今後運営推進協議会等で地域の方の協力が得られるように検討していく予定である。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にして、一人ひとりにあった声がけをしている。特に排泄時には、気を配りプライドを傷つけないよう努めている。また、入浴時には、カーテンを引くなど環境にも配慮している。	入浴や排泄時は必ず声掛けをしてケアするようにしている。利用者同士のトラブルがある場合は職員が間に入りお互いが傷つかないよう対応している。人格の尊重やプライバシーを損ねるような言動があった場合には管理者がその場で注意を促している。	誇りやプライバシー確保について更に確認し合い、利用者に向けて発している言葉の内容や語調等を常に振り返り、改善にむけて取り組まれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、何でも言えるように信頼関係を築くよう努めている。思いや希望が叶うよう、ご家族の協力をいただき支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく一日が送れるよう暮らしのリズムを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と行きつけの美容院に出かけたり、季節に合ったよう洋服を買いに行ったり、利用者といっしょに選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切にした食材選びや、お料理の仕方を相談したりして、食事を楽しんだりしている。	食事の時間を大切にしており、食材を見て利用者と職員と一緒に献立を考えたり、利用者の希望の献立を取り入れるなど、食事が楽しみになるよう支援している。菜園で採れたトマトやキュウリ、近所の方から頂いた食材が食卓に並ぶこともある。利用者は野菜の下ごしらえ、テーブルや皿を拭くなど、できる作業を行っている。利用者の希望を聴いて外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量や水分量を把握し、食事の形態や食べやすい器にするなど工夫をしたり、水分摂取の回数を増やしたり支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後には、口腔ケアの声がけをし、各自で行なっていただき、本人の力に応じた対応をしている。		

ニチイケアセンター中塩田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な場合は声がけし、自立にむけた支援を行っている。	自立されている方が半数以上いるが安心のため8割弱の利用者がリハビリパンツを利用している。できるだけトイレで排泄できるように定時で声掛けしている。夜間帯にポータブルトイレやしびんを使用し自立している利用者もいる。トイレも3ヶ所あり、そのうちの1ヶ所は立位タイプを備えた広いものである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事の提供や、毎日のラジオ体操と水分補給の徹底を行ない便秘の予防に努めている。また、必要に応じて薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って入浴できるように心がけ、ゆつくり入っていただけるよう支援している。	週2回以上は入浴ことができ、利用者の希望を聴いて昼食前か午睡後に個浴できるよう支援している。その他の時間帯や日曜日でも希望があれば入浴出来る。季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯にするなど楽しめる工夫もしている。家族と外出し近くの温泉に出掛ける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団を干し、シーツ交換も定期的に行なっている。その方の生活習慣やその時の状況に応じ、午睡したり、心地よく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬は薬情で確認してもらっている。また、薬を飲み込むまでを確認している。症状の変化時は医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望にそった楽しみを提供している。(例、塗り絵、間違い探し、風船バレー、オセロ、カラオケ等)畑作りや、家事を役割としてお願いしたり一緒にする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けたり、外食したりの支援をしている。スタッフで対応が難しい時は、ご家族に相談し、協力をしてもらっている。	庭で日光浴をしたりホームの周囲を散歩している。行事外出として初詣やあじさい祭り、塩田城跡などに出掛け気分転換を図っている。高齢者のついで地区の集会所にでかけることもある。家族からも外出頻度が増えありがたいとの声が上がっている。	一人ひとりの習慣や興味、有する力、意向に合わせて、外出先や行程などを相談しながら、より個別性のある充実した時間が得られるような支援を期待します。

ニチイケアセンター中塩田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金としてを金庫にてお預かりしている。外出の際はお小遣いからだし、支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な人に電話をしたり手紙のやり取りをしたり、希望があればいつでも出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる様なカレンダーを飾ったり、テーブルに、季節の花を飾ったりして居心地の良い空間作りをしている。	フロア兼食堂には調理しながら会話ができるオープンキッチンがあり、周囲に居室、浴室、トイレ、ソファ、テレビが配置され動きやすい導線となっている。フロアの壁にははり絵や行事外出のポスターが張られ温かい雰囲気を感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは個々の定位置がほぼ決まっていて、気の合う方と席を共にされている。いつもと違う席に座りトラブルになりそうなときは、スタッフが間に入りサポートする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や道具を持ってきていただき、以前の生活に出来る限り近い空間作りをし、安全に生活出来るよう支援している。	エアコン、ベット、クローゼットが備え付けられ、使い慣れた家具を置き、家族の写真など、思い出のものが飾られていた。転倒などに配慮し居室内はすっきり整頓されており、モップがけや掃除機はできる利用者に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは常に居室、共用部分の安全管理に努めている。環境整備には、十分配慮しているためできる事は声がけして一緒に行っている。		